

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉法人希望の里		
事業所名	グループホームむつみ1F		
所在地	苫小牧市字樽前159-198		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0173600537-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念は、入居者の皆様が、住み慣れた土地である苫小牧で穏やかに安心して生活を送っていただけることと掲げています。この理念に基づき、日常生活支援はもとより、定期的なかかりつけ医療機関への受診は職員による送迎支援を行い、細かな日常生活の様子や変化を上申・相談し包括的なケアを実践しています。

敷地の側には小川が流れており自然環境にも恵まれていることから、周辺を散歩したり畑や花壇、プランターによる花の育成を楽しむことができます。

建物については皆様にくつろいでいただけるよう畳の間を設けております。また、トイレは5か所設置しており、お身体の状態に合わせケアが必要な方も安心してご利用いただくことができます。

ご家族様へは、隣接したゲストハウスもあり、遠方からの来訪にも対応可能です。

入居者様のみならず、ご家族様にも安心していただけるような介護サービスを目指し、常に意識・知識の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市の樽前地区、樽前山の麓に位置し、四季の移り変わりを満喫することが出来、鹿、タヌキが散歩するなど豊かな自然を味わうことができる。隣接して同法人が運営する障害者支援施設があり、利用者同士行事などを通じて馴染みの関係を作ることができ、職員も同じ関わりを持つことにより、お互いに連携を密にして事例を共有しながら質の向上に取り組んでいる。法人として「秋まつり」を事業所合同で開催し約200人が参加して交流している。防火・防災に強い鉄筋コンクリート造り2階建ての建物は、エレベーターが設置され、居間、食堂は一体的で畳の間(談話コーナー)があり、明るく清潔で、温・湿度は適正に管理され、行事の写真、折り紙、毛糸で作った利用者の作品、お雛さんなど季節に合わせた飾り付けを行って家庭的な雰囲気となっている。利用者は職員に見守られ、花札、ぬり絵、折り紙をしたり、テレビを見るなどゆったりと思いいに過ごしている。職員は明るく、利用者を人生の大先輩として日頃の生活を共に過ごして資格取得の機会が得られる喜びを感じている。利用者は日光浴を兼ねて、隣接の障害者支援施設のビニールハウスからトマト、キュウリなどを収穫させてもらい交流を深めている。家族などが宿泊できるゲストハウスを設け、遠方の家族や知人が来訪しやすいよう環境を整えている。利用者職員との常日頃の生活を大事にする事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域にて穏やかに生活をしていただけるよう、理念としている。「やさしく・あたたかく・ぬくもりのある生活」ができるよう心がけている。			事業所理念「住み慣れた土地、ここ苦小牧で穏やかに」をリビングに掲示すると共に各職員の名札の裏面にも書き込み携帯し、いつでもどこでも理念を確認し、会議で再確認して職員で共有しケアにつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。近隣施設の方や職員との交流がある。			樽前山の麓の広大な土地から民家も少ないが町内会に加入し、地域住民とは散歩しながら挨拶したり、祭りには子供みこしが事業所に立ち寄り、日常的に障害者支援施設入居者との交流、法人の秋祭り等で会長、住民代表などと交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった際にはいつでも対応できるようにしている。			/		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苦小牧市の職員や地域の方・ご家族等に参加いただき、ホームでの活動などの報告とともに助言を頂いている。			市職員、地域住民、消防職員、家族などが参加し年6回開催している。運営状況、避難訓練報告、活動状況などを報告して意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。会議録を玄関に掲示している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、日頃より連絡及び相談を実施している。			日頃から市介護福祉課とは報告・連絡・相談をして、指導、助言、情報を得ており、連携が取れている。ノロウイルス等の注意案内も確実に情報提供がある。市のいきいきボランティア福祉事業を活用して週1回ボランティアを受け入れている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルとして全スタッフ間で徹底しているとともに、日頃よりスタッフ同士で「身体拘束」について話をしている。			外部研修に参加して、伝達研修、会議等で話し合っって身体拘束をしないケアに努めている。徘徊時はSOSネットワークで関係機関と協力体制ができています。防犯のため夜間は玄関施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備するとともに、虐待がないようにスタッフ間にて連携を取り虐待についての話題を多く持つようしている。入浴時や着替えの際に注意を払っている。			/		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間で権利擁護や成年後見について理解を深められるよう話している。また、外部研修にて得た知識を他スタッフへ伝え、情報の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度ご本人やご家族に分かりやすいよう説明するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記すとともに事業所内に窓口を掲示している。来訪時や電話連絡などの際に話しやすい雰囲気を作るよう努力している。	日常の会話、表情などから利用者の意見、要望を把握し、家族からは運営推進会議や来訪時、電話連絡時に話し易い雰囲気を作り意見・要望を聞いて運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃からスタッフとの会話の機会を多くし、話しやすい雰囲気を心がけている。	管理者は、職員が意見・提案を言いやすい雰囲気、環境へ配慮している。職員は、利用者と毎日の生活から気付き提案をして、ユニット会議などで話し合い、本部との連携を取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフからの話をよく聞くとともに、より良い環境を築くため環境を整えられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に合わせた研修の参加や、日頃からの助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GHの状況を伺うとともに、GH連絡会や他の外部研修などにおいて他のGHの方と交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を良く聞き、状況を確認することでよりよい関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい雰囲気づくりを心がけ、不安なことなどなんでも相談に乗っていただけるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の話を傾聴し、必要とされるサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般に援助を行いながらも、時には人生の先輩として教えを請うなど、より良い関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を重視し、よりよい関係を築くことで、ご本人をともに支える事ができるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪いただけるよう周知している。またご本人の希望・要望に添いながら、馴染みの場所へ出かけられるよう配慮している。	知人、友人が訪ねてきた時は、部屋または談話コーナーでゆっくり話ができるよう支援している。入居前に入っていたカラオケサークルへ挨拶に行ったり、病院の帰りに馴染みの店での買い物や食事をしている。家族と墓参に行ったり、馴染みの美容院へ行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通し相互に交流できるようスタッフが援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談にのることができる体制を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の気持ちに寄り添うことができるよう努めている。	入居時の利用者・家族からの聞き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握し、日頃の生活でのしぐさ・動き・サインでの会話から、個々の思いや意向を把握し職員で共有して、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から話を伺うとともに、他サービスの方からも情報の提供がいただけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を共に過ごしながら、ご本人のペースで安心して過ごしていただけるよう配慮している。またスタッフ間で情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からスタッフ間にて情報の共有を行い、また家族や主治医への相談を行い、ケアに努めている。	利用者、家族の意向を反映させ、職員の気づき等も参考に話し合い、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子がわかる記録を心がけている。記録内容を共有し、日頃からスタッフ間にて話をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人にあったサービスの提供を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設や町内会との関わりの中で、穏やかに生活をしていただけるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が希望する病院への受診を実施している。また病状に合わせ連携を行っている。	利用者・家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。職員は、病院に同行し、結果を家族に知らせている。病状によっては家族も一緒に付き添っている。週1回訪問看護師による健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携をしている他、法人内看護師への助言を依頼、緊急時にも対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師・相談員との連携を密にし、早期退院に向け情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を伝える他、病状に合わせてご本人や家族との相談や情報の共有に努めている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、契約時に利用者、家族に説明して理解を得ている。重度化が認められた時点で、本人、家族に事業所の体制を確認してもらい、本人、家族、医師、看護師などと話し合い、看取り、医療機関に入院する等、希望に添えるよう支援に取り組んでいる。今後看取りのための研修を検討している。	重度化・終末期ケアが充実するよう、医療関連専門職と連携し、職員教育、研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて実施する救命講習への参加や、外部研修への参加を行っている。また緊急時の対応について、常日頃よりスタッフ間にて話し合っている。AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には市職員や町内会、家族にも参加いただくほか、消防署へ指導を依頼している。	年2回(夜間想定)消防署の指導、運営推進会議参加者などの参加を得て避難訓練を実施している。樽前山の噴火に備え「火山防災フォーラム」、「樽前山の危険を知り、備えをしよう」などに参加し、災害に備えている。法人として「希望の里防災マニュアル」を作成し、水、食料などを備蓄し、法人内の協力体制もできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の気持ちに合わせた関わりを行い、安心して生活していただけるよう配慮している。	人生の先輩として敬意を持って、一人ひとりの気持ちを大切に言葉かけ等は丁寧に、尊厳や誇りを損ねないよう努めている。個人情報書類やデータ管理に注意して職員同士は、常日頃から利用者のプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴したり、ご本人の様子をうかがうことで表現や話しやすい雰囲気を作り、自己決定をしていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで穏やかに生活を送っていただけるよう、お一人お一人の気持ちに沿ったケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を伺い、それに添った形でおしゃれを楽しんでいただけるようにしている。また提案等させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の得意な分野を活かし、役割を持ちながら準備や片づけを行っている。	献立は隣接施設の栄養士が利用者の希望を聞いて作成し、食材が配達され職員が調理している。利用者は能力に応じ、食器洗い、配膳、片付けなどを行い、畑で採れたトマト、キュウリなど季節の野菜が食卓を飾り、職員と一緒に食事を楽しんでいる。誕生日などの行事には手巻寿司、ケーキを味わっている。希望を聞いて外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談して献立を作成している。嚥下の状態、病状に合わせた食事を提供できるよう配慮している。お一人お一人の水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にさり気なく声をおかけし口腔ケアを行っている。必要に応じ援助を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時ではなくご本人の様子や希望、間隔を確認しながらトイレで排泄していただけるよう努めている。	個々の排泄パターンを記録し、表情、動きなどから把握して、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。失敗例にも、さり気なくトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医への相談のほか、運動や水分の補給を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している他、希望に沿って入浴していただけるようにしている。	週3回午後からの入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴もできる。入浴剤を利用したり、職員と会話しながら楽しく入浴している。入浴拒否者には、無理にいせず機会を見て「いいところに行こう」とさり気ない声掛けで誘導している。家族と一緒に温泉に行っている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度に留意している。また常に清潔な環境で休んでいただけるよう、汚れた際やそれ以外にも週に一度カバーの交換を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人へ分かりやすい説明を心がけている。また量や内容などご本人の希望に応じ、主治医へ代弁しお伝えすることもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望に応じて、様々な趣味活動を行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の行きたい場所などの把握を日頃の会話の中で行っている。また、希望に沿って外出できるよう家族との連携を行っている。	夏は毎日散歩に出かけて野草を楽しんだり、日光浴を兼ねてビニールハウスから作物を収穫させてもらったり、プランターの花に水をやったり、買物、家族と一緒に外食に出かけている。また、近くの公園に桜見物に行く等、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族にての管理をさせていただいているが、ご本人や家族の希望に応じ買い物を行えるよう援助している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じ自由にやり取りできるよう配慮している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な状態を保つためお手伝いをいただきながら毎日の掃除を実施している。壁などに装飾を実施し、生活感を感じていただけるよう工夫している。	広い土地には小川が流れ、車の音も無い静かな環境にある。居間、食堂は一体的で畳の間(談話コーナー)があり、天井からの温風で暖かく、加湿器や洗濯物で湿度も適正に管理され、行事の写真、手作りカレンダー、折り紙、毛糸で作った利用者の作品、お雛さんなど季節に合わせた飾りつけを行って家庭的な雰囲気となっている。利用者は、思い思いに自由にぬり絵や花札などを楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が落ち着ける場所で過ごしていただけよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や装飾などご本人が使い慣れたものを利用できるようにしている。装飾や写真を飾ったりと、落ち着いて過ごしていただけるよう自由にお使いいただいている。	ベッド、洗面台、整理タンス、テレビ、防災カーテン等が備え付けられ、使い慣れたソファ、椅子などの家具、仏壇を持ち込み、家族の写真等を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者は、自分本位の居室で毛糸編みを楽しんだりして、ゆったりとくつろいだ生活を過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリー構造となっている。トイレの場所を分かりやすく配置するなどの配慮を行っている。			